

2021 年 7 月 21 日

神戸大学海事博物館企画展“ふね遺産「進徳丸」” を開催します

神戸大学海事博物館では毎年、貴重な学術資料や研究成果を紹介・発信するための展示会を企画し、学生や市民の方々に無料公開しています。本年度は企画展“ふね遺産「進徳丸」”を開催いたします。進徳丸は、戦前の神戸高等商船学校（神戸大学大学院海事科学研究科の前身）において使用され、大正から昭和にかけて多くの海技者育成に寄与した国内建造最大級の帆装を有した練習船です。今回の企画展は、この度、進徳丸が2021年度の「ふね遺産」に認定された記念として、練習船・進徳丸ならびに「ふね遺産」について紹介するものです。

是非お取りあげ頂き、多くの方々にご来場いただければ幸いです。

【「ふね遺産」とは】

ふね遺産とは、歴史的で学術的・技術的に価値のある船舶類およびその関連設備を「ふね遺産 (Ship Heritage)」として認定し社会に周知し、文化的遺産として次世代に伝えるとともに、「ふね遺産」を通じて、国民の船についての関心・誇り・憧憬を醸成し、歴史的・文化的価値のあるものを大切に保存しようとする気運を高め、我が国における今後の船舶海洋技術の幅広い裾野を形成することを目的としています。この認定制度は公益社団法人日本船舶海洋工学会によって 2017 年に始められました。2020 年までに 32 件が厳選されており、今回、第 5 回として新たに進徳丸を含む 7 件が認定されました。

(日本船舶海洋工学会 HP <https://www.jasnaoe.or.jp/enlightenment/funeisan/05.html>)

【進徳丸について】

進徳丸は現在すでに解体され、船体の一部を残した「進徳丸メモリアル」が設置されており、船としては現存していません。

神戸大学大学院海事科学研究科を象徴する船である進徳丸は、1923 (大正 12) 年 12 月 9 日に三菱神戸造船所において神戸高等商船学校の帆船練習船として進水し、神戸における海技者教育の中核を担いました。神戸から太平洋を幾度となく往復し、戦時中に通信省所管に替わりましたが、戦後も長らく練習船として活躍し、廃船後の 1967 年からは神戸商船大学構内に陸揚げ保存され、青少年教育施設として利用され続けました。平成の時代を経て、震災後には進徳丸メモリアルとして生まれ変わり、2021 年、ふね遺産第 38 号 (非現存船第 8 号) に認定されました。その船体部分や諸記録といった資料とあわせ、練習船の歩みを現在まで伝えている貴重な文化的遺産です。

この度、ふね遺産への認定・登録を記念し、また、進徳丸という練習船がこの世に存在したことの証 (あかし) として特別展を組みました。一万一千有余に及ぶ海の若人を輩出した日本史上最大のバーカ

ンティン型練習帆船、のちに汽船練習船"進徳丸"の在りし日の勇姿と、関東大震災の3ヶ月後に進水し、戦禍を経て阪神・淡路大震災に終わるといふ波乱に満ちたその生涯を時代背景とともにご覧ください。

◆ 開催概要

【展示会】

ふね遺産「進徳丸」

会期：2021.7.30(金)～2022.5.27(金)

会場：神戸大学海事博物館（深江キャンパス） 電話 078-431-3564

開館日時：毎週金曜日、13時30分～16時00分（事前予約制）

※新型コロナウイルス感染対策として、一般の方は事前予約をお願いしております。

※臨時に開館日時を変更する場合がございます。

※祝日および以下の期間は休館となります。

8/9(月)～8/19(木)、12/23(木)～1/16(日)

料金：無料

協力：一般社団法人海洋会、同窓会海神会 ふね遺産認定：公益社団法人日本船舶海洋工学会

【サテライト・ミュージアム】

巡回展 ふね遺産「進徳丸」：2021.10.1(金)～2022.3.11(金) に開催予定。開催内容は今後変更の可能性あります。会場は神戸大学百年記念館、神戸大学文学部を予定。

◆ その他

取材は、事前に事務室に連絡願います。なお報道用に写真提供も可能です。

問い合わせ先

博物館事務室 電話 078-431-3564（毎週月・水・金曜日、13時30分～16時00分）

館長 矢野 吉治（事務室 siryokan@maritime.kobe-u.ac.jp）

担当専門員（菊地 真・人文学研究科 mkikuchi@lit.kobe-u.ac.jp）

<http://www.museum.maritime.kobe-u.ac.jp/>